

令和5年度第2回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和6年2月6日（火） 午後3時～午後4時30分

2. 会 場 市庁舎5階 委員会室

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：萩原 敏行、小島 奈津子、尾方 香里、石山 大介

事務局：【市長部局】佐藤 慎也（理事）、阿部 泰洋（総務部長）、佐藤 則之（政策課長）、島田 雅也（政策課主幹）、藤田 睦子（政策課主事補）

【教育部局】渡部 幸代（教育部長）、小山 晃弘（教育部次長学校教育課長事務取扱）、加納 克彦（教育部次長生涯学習スポーツ課長事務取扱）、石丸 岳広（教育部副参事給食センター所長事務取扱）田中 昌継（教育総務課長）、佐藤 昌史（図書館長）、鈴木 啓文（中央公民館長）、瀬口 正浩（教育総務課庶務係長）、松永 由美子（学校教育課指導係長）、内田 敦子（学校教育課学校保健係長）

4. 内 容

1 開会

【阿部総務部長】

ただいまから、令和5年度第2回蕨市総合教育会議を開会いたします。

2 あいさつ

【阿部総務部長】

はじめに、頼高市長からご挨拶をお願いいたします。

【頼高市長】

皆さまこんにちは。蕨市長の頼高英雄です。本日はお足元の悪いなか、ご参加いただきありがとうございます。また、委員の皆さまには、日頃から本市の教育行政の推進に大変ご尽力をいただき、改めてお礼を申し上げます。

元旦に発生した「能登半島地震」から1か月と少し経過いたしましたが、い

まだに 1 万 4 千人以上の方々が避難生活を余儀なくされているという状況です。改めてお見舞い、またはご冥福をお祈り申し上げるとともに、一日も早い復旧復興をご祈念申し上げます。

蕨市においては、義援金の募集や、職員の被災地派遣などさまざまな形で支援に取り組んでいます。職員が避難所運営支援にあたった石川県七尾市では、学校の教室を避難所として開設しており、体育館よりも教室のほうが過ごしやすいという利点もある一方で、教室を避難所として使うと、その学校の再開が非常に難しくなるという懸念もあるようです。しかし、最近になって被災地のほぼ全ての公立学校が再開されたということで、困難な状況のなかで、子どもたちの学びを保障するために多くの関係者の皆さまがご奮闘されたということを実感しています。

さて、本日の総合教育会議につきましては、「令和 6 年度教育事業の概要(案)」について、それぞれご報告をいただくということになっています。議題と内容が重複する部分もありますが、私からは、新年度の予算や施策のなかで子どもに関わる部分についていくつかお話をさせていただきたいと思います。

まずは教育条件の整備についてです。学校の体育館のエアコン設置については、令和 5 年度をもって 10 校中 7 校の設置が完了し、新年度は残りの小学校 3 校の設置工事を行い、全学校の設置工事が完了する予定です。体育館へのエアコン設置率は、全国的に 2 割いかないくらいの水準であるということで、蕨市は進んだ取り組みができていると思います。また、学校のトイレ改修については、今までは単年度で設計と工事を行っていましたが、改修工事量が多いため、新年度からは、まずは、工事の設計を業者委託で実施し、翌年度に工事を行うことを予定しています。学校のトイレ改修については、子どもたちからも大変好評の声をいただいております。今後を着実に推進してまいります。

次に給食費の無償化についてです。今まで「学校給食費負担軽減事業」として、食材費が高騰するなかでも保護者の負担を増やすことなく、子どもたちに学校給食を提供してきました。新年度はこの事業を引き続き行うことに加え、第 2 子以降の学校給食費の実質無償化を行ってまいります。

次に ICT 機器については、前回の会議の議題でもありましたが、1 人 1 台のタブレットパソコンを一度に導入したことから、更新の時期も全て同じ時期となり、一度に更新する必要があるなど、同時に費用がかかるのではということが懸念されています。新年度は、国県の財政措置も活用しながら徐々に進めたいと思います。

次にひとり親世帯への学習支援については、現在まで生活困窮世帯へ向けた学習支援を行っていますが、それを新年度より、ひとり親世帯の子どもを対象として拡充します。また、ひとり親家庭及び低所得世帯の子どもに係る大学等の受

験料、及び中学生、高校生等の模擬試験の受験料の助成を行うことや、就学援助費用に家庭でのオンライン学習に使えるような通信費を上乗せするということを予定しています。

さらに新年度は、「ヤングケアラー条例」と「こども計画」というものを策定予定ですが、実は今大きな流れとして、このようなさまざまな施策をすすめる際には、当事者である子どもの意見を聞くことが重要だといわれています。「ヤングケアラー条例」の策定の際にも小学生向けのチラシを作成し、学校で配るなどして子どもたち自身の声を反映させていく取組を行いました。今後「こども計画」を策定するにあたって、さまざまな形で子どもたち自身の声を取り入れていきたいと思っています。

さて、私からいくつかお話しさせていただきましたが、後ほど各担当より説明がございますので、委員の皆さまにはさまざまな形でご意見をいただいて、これからのより良い教育行政につなげる、有意義な総合教育会議にしていきたいと考えています。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

【阿部総務部長】

ありがとうございました。それでは、要領第3条の規定に基づきまして、会議の議長を頼高市長にお願いさせていただきます。

市長、よろしくお願いいたします。

【頼高市長】

はじめに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、総合教育会議は公開することとなっていますが、本日の会議に傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

【阿部総務部長】

本日は、傍聴希望者はいません。

(1) 令和6年度教育事業の概要(案)について

【頼高市長】

それでは、会議次第に基づきまして、会議を進行いたします。議題(1)の「令和6年度教育事業の概要(案)について」です。事務局から説明をお願いします。

【田中教育総務課長】

令和6年度教育事業の概要（案）についてご説明させていただきます。別紙資料1の蕨市教育大綱の抜粋をご覧ください。

教育の目標や施策の根本的な方針である大綱は、教育基本法第17条に基づき定めるものとされており、蕨市教育大綱は第2期蕨市教育振興基本計画において、蕨市の教育の目指す姿として掲げる基本理念、基本方針、基本目標を骨子として構成しています。

令和6年度教育事業の概要（案）は、この蕨市教育大綱をもとに基本目標に掲げる「①学びあい高めあう学校教育の充実」「②生涯学習を支える社会教育の充実」「③どこでも誰もが親しめる生涯スポーツの充実」の各分野において実施するものです。令和6年度は市長マニフェスト6事業を含む新規事業7事業で、昨年度から4事業増の20事業を掲載いたしました。

各事業内容の説明につきましては、それぞれ基本目標ごとに担当課からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1 少人数学級推進事業（35人程度学級）

【小山教育部次長】

予算額は669万8,000円です。令和6年度は、塚越小学校に1名の市費教員の配置を予定しています。

国では、令和3年度から令和7年度まで5年かけて、小学校の学級編制の標準を2年生から順次35人に引き下げるようになっていますが、蕨市においては、市独自の35人程度学級実施により、6年生においても少人数での学習指導、生活指導を行います。低学年からの円滑な引き継ぎを行うとともに、一人一人の児童へのきめ細やかな支援の充実を図るものです。

少人数学級の目的は、学級編制を少人数化することにより、学級担任の目が行き届いたきめ細やかな教育指導を実施することにあります。教師が一人一人の児童としっかりと向き合い、保護者に対しても丁寧に対応ができています。

2 教育センターの効果的な運用

【小山教育部次長】

予算額は2,173万9,000円です。令和6年度は参集形式だけでなく、オンラインも活用しながら効果的な各教科等主任会を進めていきます。また、センターに整備されているICT機器を活用しながら、次年度も継続してICT活用指導力向上ワーキンググループ会議やALT研修等、機器を活用しながらの効果的な研修を推進してまいります。

3 学校におけるICTの効果的な活用（ICT支援員の配置）

【小山教育部次長】

予算額は825万円です。令和5年度に引き続き、ICT支援員を1名配置します。

ICTに係る教材作成支援、教員や児童・生徒への端末操作支援をはじめ、校内研修の企画・運営支援、また、教職員ポータルサイトを活用した研修動画の提供や効果的な授業活用事例の紹介等を通して、各校でのICT機器の活用が積極的かつ効果的に進むよう支援してまいります。教員のICT活用能力は年々向上しており、児童・生徒も端末に触れる度にその活用能力が向上しています。

令和6年度も引き続きICT支援員を配置し、児童・生徒の「情報活用能力」の向上を図ってまいります。

4 ALTや英語4技能テストを活用した外国語教育

【小山教育部次長】

予算額は4,821万5,000円です。令和5年度に引き続き、市内全小・中学校に1名ずつALTを配置します。

ALTの効果的な参画による授業や教材開発、「パフォーマンステスト」の実施をとおして、児童・生徒の学習の習熟度を適切に把握し、個々の学習改善や教職員の指導改善を図ってまいります。

またこの他、中学校2年生及び3年生を対象として英語4技能テストであるGTECを引き続き実施いたします。

なお、令和5年度の蕨市立中学校3校のGTECの結果につきましては、いわゆる英検3級相当以上の力をもっている生徒の割合は市全体として56.3%であり、令和3、4年度に続き、国が目標としている50%を上回る数字となりました。これは蕨市のこれまでの外国語教育における成果であると認識しています。

令和6年度につきましても、GTECの実施、及びGIGAスクール端末を活用した外国語学習、またテスト結果の詳細な分析に基づく教職員研修を組み合わせ、PDCAサイクルを活用しながら、生徒の外国語活用能力の一層の向上を図ってまいります。

5 通級指導教室の増室（発達障害・情緒障害通級指導教室）

【小山教育部次長】

現在南小学校に2教室「発達障害・情緒障害通級指導教室」を設置していますが、令和6年度は入室希望者が多くなることから、県に加配教員を申請したところ、さらに1名の加配が認められたことに伴い、南小学校の1教室を中央東小学

校の方に移して、第二中学校に増設をいたします。

このことにより、年度当初から入室希望者が全員通室することが可能となります。さらに、年度途中からの入室希望にも応えられる見込みです。

また中学校では、他の二つの中学校へも担当教員が巡回し、指導を行います。学習や集団活動を苦手とする児童・生徒に対し、よりよい学校生活を送ることができるよう、その充実を図ってまいります。

6 教員業務支援員の配置

【小山教育部次長】

予算額は755万3,000円です。令和5年度に引き続き、令和6年度当初から蕨市立全小・中学校に教員業務支援員を配置いたします。

会議資料及び学習用プリントの印刷、採点業務補助、来客・電話対応等、主に教職員の働き方改革に資するための業務を行っており、これまでも教員の業務軽減に大きな役割を果たしていると大変好評をいただいています。

令和6年度につきましても、1日5時間、年間130日間の勤務を予定しています。

7 学校ICT環境の整備

【田中教育総務課長】

予算額は1,454万1,000円です。教育委員会では、学校における児童・生徒のICT活用を推進し、新しい時代の学びに適した環境整備を目的に、パソコン教室のリニューアルを進めています。

令和6年度は、ICTを活用しながら協働的な学びを創出し、子どもたちの創造性を伸ばす拠点となる場所として、第二中学校内に3Dプリンタや電子黒板機能を有した大型提示装置等を設置した、(仮称)DXルームを整備する予定です。

8 学校トイレの洋式化

【田中教育総務課長】

予算額は3,760万5,000円です。教育委員会では、小・中学校の教育環境の改善を目的に、校舎のトイレ改修を計画的に進めています。

令和6年度は、次年度以降の改修工事に向けて、東小学校、南小学校、中央小学校において、工事の設計を行う予定としています。

9 学校体育館エアコンの整備

【田中教育総務課長】

予算額は1億9,480万円です。教育委員会では、近年の猛暑対策として、学校における教育環境の向上とともに、避難所としての機能を高めるために学校体育館への空調設備の設置を進めています。

令和6年度は、西小学校、中央東小学校、塚越小学校で設置工事を行う予定であり、これにより全校の体育館へのエアコン整備が完了する見込みです。

10 デジタル教材整備・活用事業

【小山教育部次長】

予算額は819万8,000円です。児童・生徒一人一人に応じた学びを提供するため、小・中学校において、デジタルドリル等を整備します。

また、学校において、児童・生徒一人一人の学習状況や学習進度に合った出題による知識・技能の効果的習得・定着や児童・生徒の習熟の度合いを含めた学習状況の把握による指導の個別最適化を図ることができるよう、デジタルドリルの効果的な活用を図ってまいります。

このほか、不登校児童・生徒への学びの保障や、プリントの作成・配付・回収・採点等に係る教職員の業務の軽減等、学校におけるデジタル教材の効果的な活用を推進してまいります。

11 水泳指導民間委託

【小山教育部次長】

予算額は906万7,000円です。小・中学校の水泳授業は、これまでも天候の影響を受けていましたが、近年では猛暑により授業を実施できないこともあり、児童・生徒の安全を確保し、計画的に授業を実施することが課題となっていました。

またプール施設の老朽化に伴い、維持についても検討する必要が出てきました。

そのため、令和6年度には、民間施設を活用した民間委託方式での水泳授業を小学校2校に拡充して検証実施いたします。令和5・6年度の検証実施での取組を踏まえ、今後の学校プール施設の方針についてさらに検討してまいります。

12 コミュニティ・スクール事業の推進

【小山教育部次長】

予算額は35万円です。令和5年度までに東小学校、塚越小学校、東中学校の東中学校区、それから西小学校、北小学校、第二中学校の第二中学校区にコミュニティ・スクールを設置し、学校運営や学校教育活動に対して、保護者や地域の方が参画できるようにするとともに、学校の教職員の負担軽減を図ってまいり

ました。

令和6年度からは新たに南小学校、第一中学校の第一中学校区と、中央小学校、中央東小学校をそれぞれ単独でコミュニティ・スクールを設置することで、市内全小・中学校で実施することとなります。コミュニティ・スクールは、年間5回程度開催予定で、内容については、委嘱状交付や各校の情報交換、学校公開、学校評価、学校経営方針の承認等を行う予定です。

1.3 学校給食費の負担軽減

【石丸教育部副参事】

こちらは2つの事業の実施を予定しています。

1つ目の事業は、本年度も実施している市が給食費の一部を補助する負担軽減事業です。

蕨市では、現在独自の施策として本年度の9月以降、物価高騰により不足が見込まれる給食費の食材価格高騰相当分を市が補助し、保護者の皆さまの追加負担を生じさせないよう負担軽減策を図っています。

今後も食材費の高騰が予想されることから、令和6年度については年度当初から負担軽減事業を実施してまいります。具体的な補助金額は小学校で1食あたり20円、中学校で24円をそれぞれ上乗せする予定です。予算額は、1,934万6千円です。

続いて2点目の事業は新規事業で、2人目以降の給食費無償化事業です。

現在国では、給食費の無償化が研究されていますが、蕨市では子育て支援対策の一環として、令和6年4月分の給食費から15歳以下の児童・生徒を養育している世帯のうち、2人目以降の給食費無償化を行い、該当家庭の経済的負担の軽減を図ります。

実施方法は、一度支払った対象児童等の給食費を保護者の指定口座に還付する方式を想定しており、対象は生計を一つにする義務教育の家庭に在籍する子が2人以上で、中学3年生から数えて2人目以降の児童・生徒であること、無償の対象となる2人目以降の児童・生徒が蕨市立小・中学校に在籍していることなど、複数の条件に該当する方で、予算額は3,388万円となっており、学校給食費の負担軽減事業と合わせて5,322万6千円となっています。

【頼高市長】

それでは、基本目標Ⅰ「学びあい高めあう学校教育の充実」について、皆さまよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

特に無いようでしたら、先にご報告をすすめさせていただいて、最後にまとめてご意見、ご質問をうかがいたいと思います。

それでは、資料 8 ページから 9 ページの基本目標Ⅱ「生涯学習を支える社会教育の充実」について、事務局から説明をお願いします。

1 公民館への学習用無線LANの整備

【鈴木中央公民館長】

こちらは公民館におけるインターネットを使用した学習環境の充実を目的に、全公民館に学習用無線LANを整備するものです。

これに先立ち、令和5年度には、中央公民館、東公民館、北町公民館の3公民館で実証実験を実施し、課題や運用方法等の整理を行いました。

その結果をもとに、本格導入に向けて、機器の使用や各課の設置場所の検討を進め、令和6年度には各館ロビー等を中心に機器を設置するほか、館によっては貸出用の機器の導入も予定しています。

公民館費として、初期費用及び年間の通信料96万2,000円を計上しているほか、北町公民館に併設する市民体育館のアリーナにも、無線LANの設置を予定しており、こちらは市民体育館費として6万4,000円を計上しています。

2 読書通帳の作成

【佐藤図書館長】

本市は、読書通帳事業として大人向けにインターネット上の「My本棚」サービス、小学生向けに市内全ての小学校で読書記録を実施していますが、今回新たに未就学児向けの事業を開始したいと考えています。

なお、予算要求時の名称が読書通帳ですが、具体的な検討を進めるなかで、手書きで記入することを考慮し、現在は通帳サイズよりも大きめの手帳サイズで作成することを考えています。

交付方法につきましては、現在4か月児健診時に行っている絵本の読み聞かせを実際に見てもらいながら、おすすめの絵本を1冊贈呈し、読み聞かせの手引きと蕨市推奨図書リストを配布するブックスタート事業を実施しているところですので、その際に読書通帳も合わせて交付し、相乗効果を期待したいと考えています。なお、4か月児以外の未就学児の希望者には図書館のカウンターで交付することを検討しています。

また、読書手帳が利用されるための推進策として、乳幼児の保護者である20代～30代の方がメインターゲットとなると考えていますので、そちらの方が利用したいと思えるセンスの良い手帳とするために、デザインの段階から業者に依頼し、さらに手帳への記入が全て達成した方には達成記念品をお渡しすることによって、継続意欲を引き出すことを考えています。現在達成記念品としてはオリジナル缶バッジを検討しています。

予算額は39万9,300円であり、読書手帳1,800冊、達成記念缶バッジ1,800個、達成記念のゴム印の作成費用となっています。

3 第4次蕨市生涯学習推進計画の策定

【加納教育部次長】

現行の計画が令和6年度で終了となることから、それ以降の10年間の計画の策定に着手するものです。

この計画は、次年度に展開される新たな「将来ビジョン」における生涯学習に関する施策を具体化するための個別計画といった位置づけで、教育のなかで一番大きな計画である「蕨市教育振興計画」と整合を図るとともに、「埼玉県生涯学習推進指針」等を参酌して、作成を進めてまいりたいと考えています。

4 蕨市自然体験活動事業

【加納教育部次長】

予算額は185万円です。蕨市と交流がある群馬県片品村、そして栃木県大田原市を行き先として子どもたちを中心とした自然体験のツアーを予定しています。

片品村へ夏に2泊、また大田原市へ秋に1泊することを想定していて、片品村が約103万円弱、大田原市が約82万円弱ということで合計185万円となっています。費用の内訳としては、バス代、高速代、宿泊費、参加者の食事代、見学先の入館料、謝礼、消耗品類などで、一部、参加者から参加費を頂戴する形で行っていきたいと思います。

5 音楽によるまちづくり

【加納教育部次長】

今年度からの継続事業ではございますが、生の優れた音楽に触れていただく機会として「小・中学校へのプロの音楽家の派遣」、年間3回ほど市内の音楽関係の催しを紹介する「音楽関連情報紙の発行」、夏を中心に行っている「蕨市民音楽祭の開催」などの取組を予定しています。

皆さまに音楽や催しを通して、蕨市に親しみをもっていただくとともに、蕨市のイメージアップを図ってまいります。

【頼高市長】

それでは、基本目標Ⅱ「生涯学習を支える社会教育の充実」についても、後ほどまとめてご意見、ご質問をうかがいたいと思います。

それでは、資料10ページの基本目標Ⅲ「どこでもだれもが親しめる生涯スポ

ーツの充実」について、事務局から説明をお願いします。

1 各種イベントやスポーツ教室等の開催

【加納教育部次長】

令和6年度は、毎年恒例となっている市民ロードレース大会や市民水泳大会のほか、体力テストや少年スポーツ教室、また民間温水プールの借り上げなどの事業を継続実施し、市民の皆さまの健康・体力づくりに努めるとともに、コロナも少し落ち着いてきたこともあるので、より皆さまにご参加いただけるよう努めてまいります。

2 女子サッカー応援事業

【加納教育部次長】

今年度からスタートした事業である子どもたちを対象とした女子サッカー教室を、令和6年度も女子サッカーに親しんでいただく機会として取り組んでまいります。

また、令和5年の夏に飯能市が本拠地である、ちふれ AS エルフェン埼玉と蕨市が「サポータータウンに関する協定」を締結しました。チームの拠点がないところでは、おそらく初めての取組だと伺っておりますが、これをもとに、昨年子どもたちが飯能市のチームグラウンドに行き、選手達と一緒に練習交流を行ったり、応援ツアーを開催したりということが実現しました。

新年度もそうしたエルフェンを中心とした子どもたちとの交流などの事業を引き続き取り組んでまいります。

議題(1)についての説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

【頼高市長】

それでは、皆さまよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【石山委員】

水泳指導民間委託について、令和6年度は民間委託方式での水泳授業を小学校2校に拡充するとありますが、今年度の実績はいかがでしょうか。

また、子どもたちの運搬方法や、授業時間の確保などの事業の詳細と、保護者の反応について教えてください。

【小山教育部次長】

今年度は西小学校で5月の中旬から7月の中旬までの約8週間の期間で、小学校1年生から6年生までの子どもたちを、観光バスを使ってピストン輸送という形で運搬しました。現地では20名程度のグループに、指導員1名と、教員も含めた監視員がついて、子どもたちの安全確認を行いながら、2時間続きの時間の中で、授業2コマ分にあたる60分間の入水時間は確保しながら、授業を行いました。

水泳指導の評価を時間に余裕をもって行えたり、プールへ入水できない子どもたちの面倒をみることができたりなど、子どもたち一人一人に目を向けることができ、非常に好評でした。

今年度実施した西小学校については継続して実施し、もう1校については、さまざまな検討を進めながら、実証という形で進めていきたいと思えます。

保護者の反応としては、楽しんでいる子どもたちの様子を見ていることもあり、非常に好意的に受け取っていただけたと思えます。ただ、アンケート内で、先にインストラクターの方を紹介してほしいという意見もございましたので、令和6年度に関しては、しっかりと保護者の皆さまにもインストラクターをご紹介します、実施したいと考えています。

【萩原委員】

市のいろいろな施策の中で、さまざまな支援員を活用しているという点は大変素晴らしいと思えますし、ICT支援員、ALT、教員業務支援員などのそれぞれの支援員の仕事は非常に重要だと感じています。

私は、教員養成の仕事の中で教員を目指す学生と話す機会があるのですが、その中で保護者対応を不安に思う学生が多くいます。

その意味で支援員は、保護者対応と切り離れたところで仕事ができるので、保護者対応が苦手な、教員になったあとに急に教員を辞めてしまうという学生をうまく活用するのに非常に良いシステムなのではないかと思えます。

そのため、市として今後、支援員をさまざまな形で拡充していくという方向性はあるかどうかを教えてください。

また、保護者対応は、普通の教員が行うのはなかなか難しいところがあるので、企業のように保護者対応の窓口的な支援員を設置することは可能なのかどうかを教えてください。

【小山教育部次長】

支援員の業務が、教員の業務の大きな手助けになっている上に、子どもたちとも直接関わっているので、支援員を拡充していくことは、子どもや保護者、先生方にとって大きな力になると考えており、例えば、特別支援学級が増えたところ

に支援員を増員するなどの取組は行っています。ただ、現状として応募者の方が少ないという課題がございます。

支援員が専門的に保護者対応を行うということは、検討の必要があるかと思えます。もちろん、現在も支援員は電話対応を行っていますが、あくまでも教員への取次という形で行っている方がほとんどであるため、対応までの責任を負ってやっていただけの方を任用するということを前提として、支援員の活用を考えていかなければならないと思えます。

また、授業が空いている教員が、教室に入ることに抵抗がある子どもたちの自学習の様子などをみる、ステップアップルームというのがあるのですが、来年度以降、そこに教職経験をもった支援員や相談員を配置することを検討しています。

【萩原委員】

特別支援学級の支援員を拡充していくというお話がありましたが、こういった取組は、教員の負担軽減につながるため、良い取組だと思えます。

また、人員が確保できないという課題に対しては、例えば市内で教員になった場合には奨学金返済が減額される取組などがあたらどうかと個人的に思っているところですが、今後、市の方で工夫・改善をしながら取組をすすめていただきたいと思えます。

さらに、ICT教育については、今年度の施策にもあるとおり、支援員の整備、環境整備、教材関係の整備など、さまざまなものを整備する必要がありますが、将来的にICTを活用して子どもたちが世界に出ていった時に、批判的思考力や、情報の活用という部分が大きな課題になると思えます。

経済協力開発機構（OECD）の国際比較調査では、批判的思考力の指導において、日本は世界最下位となっています。これを考えたときに、将来的には、批判的思考力の指導を施策として取り入れていく必要があると思えます。

【小山教育部次長】

蕨市としてはいじめ未然防止のワーキンググループというのがあり、その中でカリキュラムを作り、全学年で年間5回ほどの授業を通して、他人との関わり方などを指導していく取組を令和6年度から全校で進めることを考えています。

また、それを教職員ポータルサイトに格納し、全ての教員が指導案を引き出して使用できるようになる予定です。

子どもたちが他人と関わるなかで、さまざまな課題が考えられますが、学年に応じた教材を用意し、子どもたちの心の教育を実施していきたいと考えています。

【萩原委員】

そういう取組はとても重要である上、いじめ問題というのは、合意形成ができない子どもたちの問題から発生すると思うので、この取組で道徳が強化されると良いと思います。

道徳というのは、教科書で表面的なことは子どもたちに伝えられるようになっていますが、実際問題として、教科書の内容が、リアルな子どもたちの世界に対応できる内容かというところがあると思います。

そのため、例えば違う信念や考え方をもった人たちが入ってきた時に、そういう人たちとどう向き合っ、合意形成をしていくのかという点が、いまの学校教育システムのままだと難しいところがあると思います。

今後、他国のようにそういう部分に対応する教育をある程度行っていく必要があり、表面的な道徳教育だけでなく、違う人との関わりが前提となる教育システムに、何かしら先進的なことを打ち出せないかと考えています。

【頼高市長】

このような課題に先進的に取り組んでいる実践例などはあるのでしょうか。

【萩原委員】

実践例については、特に聞いたことがないです。

【頼高市長】

メディアリテラシーという形での授業はあると思いますが、そこにとどまらず、意見交換などを通して多様性への理解を深めていく必要があると思います。なかなか難しいですが、ご指摘のとおり重要な問題であると感じています。

【尾方委員】

ICT教育について、学校訪問を通じてさまざまな学校を見ていて、どの学校においても授業でも積極的に活用されているということを実感しています。

また、先生方のICTのスキルも上がっていて、今後もますますICTを利用していくことになると思うのですが、教育ツールとしてのICTの利用だけでなく、1人1台持っている端末をうまく活用して、先生と子どもたち、または先生と保護者をつなぐ窓口としても活用すると良いのではないかと思います。

例えば、不登校の子どもたちや、面と向かって意見が言えない子どもにとっては、一つのツールとして非常に有効的に使えると思います。

また、子どもたちは、すでにスマートフォン等でさまざまな情報を得ているの

で、この中から正しい情報を自分で選択する力が、今後必要になると思います。

そのため、子どもたちへのソフト面の教育が重要であることに加え、授業を実施する教員のスキルアップを支援する取組や、教員同士でお互い情報交換し、共有できるようなシステムがあると良いと思います。

【小山教育部次長】

ご指摘いただいたこと、非常に重要なことだと考えています。

蕨市では各学校から教員を1名集めてICT活用ワーキンググループというものを実施しており、例えば新しいアプリやソフトを使用する時には、教員がまず使ってみて、利点を理解してから各学校に持ち帰り、校内研修等で活用するという形をとっています。

また、情報リテラシーなどの問題については、ワーキンググループのなかで蕨モデルとして、学年に応じて指導する内容を示したリストを作成しているところで、今後こういったものも活用しながら、子どもたちが適切に端末等を使用できるように、また、心の面での教育も含めて、指導していきたいと考えています。

さらに、保護者との連絡については、コドモンという連絡用システムを使っています。例えば先日、新幹線が止まってしまい、スキーから帰ってくる第二中学校の生徒たちが新幹線に乗れなかったということがありましたが、生徒の保護者とコドモンで連絡をとっていたため、特に混乱もなく、スムーズに引き渡しを行うことができました。

このように、コドモンでは、保護者との連絡を密に取れるようなシステムになっていますので、今後も活用していきたいと思います。

不登校の子どもへのICT機器の活用については、貸し出している端末を活用し、教室で授業を受けられるものは教室で受けてそれ以外は端末を使用するなど、それぞれの子どもに合わせた対応を行っています。1日中リモート授業を受けるというのは難しいところもありますが、面と向かって話すことが苦手な子どもでもリモート授業のチャット上では、積極的に会話をしてくれることもあるので、今後もICT機器を活用しながらこういった取組を進めてまいりたいと思います。

【石山委員】

コミュニティ・スクール事業について、予算額35万円の内訳を教えてください。

また、各コミュニティ・スクールで、決められた分野について協議や講義を行っていると思いますが、その分野は、各コミュニティ・スクールそれぞれで決めているのかどうかを教えてください。

【小山教育部次長】

まず、予算額については、主に参加していただいた委員への謝礼と、講師への謝礼、消耗品費となっています。

次に、協議会や講義の分野決定については、基本的には各コミュニティ・スクールでテーマを決めているので、全て同じテーマということではございません。

【石山委員】

各コミュニティ・スクールそれぞれでテーマを決定し、学校教育の充実に資するための活動ができるということですね。

【小島委員】

A L T や英語4技能テストを活用した外国語教育について、市内3校で英検3級以上相当の力をもっている生徒が56.3%というのは非常に高い数字で素晴らしいと思います。

最近では、大学受験において、英検の成績によって英語の試験を免除できるという取組をしている大学もあるようで、ますます英語教育は重要になっていると感じています。

こうしたなかで、私としては、一回の試験のために英語を活用するのではなく、日頃からコツコツと英語の学習に取り組み、身に付けてほしいと思っていますし、高校に入学する前に英語4技能を学ぶことは非常に有効な取組であると感じています。56.3%の生徒が英検3級以上相当の力をもっているということは素晴らしいと思いますが、さらに上を目指し数字を引き上げていくことで、高校進学だけでなく、大学進学にも役立つものになっていくと思います。

【小山教育部次長】

G T E C の良い点は、試験を受けて終わるのではなく、事前の学習から始まり、試験の結果を受けて繰り返し練習するという、試験の前後を含めた継続した学習ができる点です。

また、教員は研修を受けながら指導を行っていくため、子どもたちに英語の教育が浸透しやすいという特徴があると思います。

今後も子どもたちの英語力を伸ばすことを目指し、取組を進めていきます。

【萩原委員】

他の市町村では、英語を教える教員に英検やG T E C を受けさせているという話を聞きましたが、蕨市の状況について教えてください。

【松永学校教育課指導係長】

埼玉県から毎年1回案内があり、各校に共有しています。既に資格をもつ教員も何名かいますが、まだ資格をもっていない教員も多くいるので、こちらも周知を図っているところです。

また、英検準一級相当の資格をもつ教員は3名程度います。

【萩原委員】

外資系の企業などでは、必ず毎年試験を受けることが当たり前になっているところもあります。学校の教員も、子どもたちに英語を教えている立場ですので、一度のみ資格を取得するのではなく、毎年続けて資格の取得をしていくと良いと思います。

【頼高市長】

GTECについては、子どもたちが自分のペースで繰り返しコツコツと勉強ができ、結果がフィードバックされて次の学習に生かすことができることや、教員への研修があるということで利点が多く、これまで進めてまいりましたが、子どもたちにとって良い成果が出ているということで非常に嬉しく思います。

また、ALTについては、直接雇用で継続して優秀なALTを配置できています。2022年に開催された「第74回埼玉県中学校英語弁論大会」で優勝した第二中学校の生徒も、ALTの指導が良いと話しており、子どもたちの英語教育においてALTの存在はとても重要なものであると感じています。

昨年開催した「学校・まちづくりミーティング」において、子どもたちから英語を使って交流する機会がほしいという意見がありましたが、新年度は、コロナの影響で中止を余儀なくされていた「国際青少年キャンプ」を4年ぶりに実施する予定で準備をすすめています。参加できる生徒の人数は限られてしまいますが、こういう機会は英語の学習だけでなく、多文化に触れるという貴重な経験になるものだと思うので、今後も取組を進めていきたいと思っています。

【萩原委員】

読書通帳について、未就学児を対象にしたものであるということですが、一方で電子図書館の対象者は小・中学生で、図書の内容も含めて小・中学生が使いやすいようなシステムになっていると思います。小さい子どもがいてなかなか外に出られない保護者のためにも、電子図書館のシステムを未就学児向けにも広げていくと良いと思いました。

【頼高市長】

ちなみに、電子図書館の図書の中で、未就学児向けの図書はありますか。

【佐藤図書館長】

今年度の読み放題パックの中に「アンパンマン」のセットがあり、それは同時に何人でも見ることができるため、読み聞かせに適していると思います。

【萩原委員】

「アンパンマン」も良いとは思いますが、それ以外にも小学校の授業につながり、小学校に入学する前に読んでおくと役に立つような図書があるとさらに良いと思います。

【佐藤図書館長】

ご指摘のような図書がある、小学生向けの読み放題パックも用意しています。昨年はむしろそういう図書のみを用意していたのですが、今年度は、小さい子どもを抱えて図書館に行くことに抵抗がある保護者の方にも、自宅のタブレットで気軽に読み聞かせができるように「アンパンマン」などの未就学児向けの図書を加えました。

【萩原委員】

業者の電子図書のシステムの内容によるので市として内容を充実させていくことはなかなか難しいと思うのですが、今後図書の内容について市から事業者に要求することは可能なのでしょうか。

【佐藤図書館長】

可能です。今後も事業者の方へ図書の内容について、要求を図っていきます。

【頼高市長】

読み放題パックではなく、いわゆる通常の1冊ずつ読む図書の中には、小学校入学前に読んでおくと役に立つような未就学児向けの図書はありますか。

【佐藤図書館長】

数は少ないですが、いくつかございます。ただ、そういう図書はどちらかというと就学児向けで、未就学児だと絵本などの図書になるかと思います。

今後も図書メニューの内容を充実させるよう努めていきます。

【小島委員】

読書通帳について、未就学児の母親にアプローチするという点が非常に良いと思いました。読み聞かせをしている子どもは読解力がつくという話をよく聞きます。だからこそ、図書館の方から子育て世代の母親に対して、上手に読まなくてもいい、毎日同じものを読んでもいいから読み聞かせをやることが重要であるということを、強く訴えてほしいと思っています。

【尾方委員】

私自身もブックスタートで絵本をいただきました。その時はリアルな絵本でしたが、時代とともに電子図書の利用が進んでおり、若い世代の母親は電子での読み聞かせなども利用しているかと思います。

今後ブックスタート事業を進めるなかで、図書館だけでなく、保健センターとの連携が重要だと思っています。保健センターで保健師の方とさまざまな相談をすると思うので、そのなかでブックスタートを提案するなど、保健センターと連携を行いながら進めていくとさらに良い取組になるかと思っています。

【頼高市長】

読書通帳については、未就学児向けという点が重要だと考えていて、ブックスタート事業で本を配るだけでなく、子どもが成長する過程のなかで今まで読んできた本を記録することで、新しい本を読むきっかけになったり、親子の触れ合いにつながったりする非常に良い取組であると思っています。

また、所管は図書館になっていますが、4か月児健診時に配布するというのもあり、保健センターと連携した取組にしていきます。

小学生は、学校を通じて本に触れる機会が多くあると思いますが、未就学児はなかなか本に触れる機会がないかと思うのでそこが豊かになるような取組にしていきたいと思っています。

(2) その他

【頼高市長】

それでは、議題(2)その他について、事務局から何かありますか。

【佐藤政策課長】

2点ほどご報告したいと思います。

まず1点目は、「新たな将来ビジョン」についてご報告いたします。

現行の計画「コンパクトシティ 蕨将来ビジョン」が令和5年度で計画期間を終

えることから、昨年度は計画策定のための基礎調査を実施し、今年度は審議会等でご意見をいただきながら、市の目指すべきまちのビジョンや方向などを示す将来構想案を策定し、議会でのご議決を経て、その構想に基づいた基本計画部分の策定を進めていました。

今回「コンパクトシティ 蕨将来ビジョンⅡ」の基本計画案がまとまったため、2月1日より市ホームページ、公共施設などにおいて、パブリック・コメントを開始しています。

基本計画案自体はボリュームが多いため、中身についてのご紹介はできないのですが、概要のとおりまとめていますのでご参照いただければと思います。

今後のスケジュールは、2月21日までパブリック・コメントを実施し、3月に計画策定となる予定です。

2点目は、「令和6年度市長タウンミーティング」についてご報告いたします。

市長タウンミーティングにつきましては、例年通り令和6年度の施策や予算について、市長から皆さまに市の取組についてお伝えし、皆さまから市のまちづくりなどについてのご意見を伺いたいと存じています。

開催日程と会場につきましては、こちら資料2のチラシのとおりとなっており、前年同様の7会場での実施となりますので、教育委員の皆さまにおかれましては、ご都合のよろしい際にご参加いただければ幸いです。

説明は以上となります。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さまよりご意見・ご質問をお願いいたします。

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤政策課長】

次回の会議日程でございますが、10月に開催することを提案させていただきますが、いかがでしょうか。

【頼高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期について提案がありました。いかがでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、次回の開催については、10月に開催することといたします。
そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤政策課長】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆さまにご確認をさせていただき、要領第6条の規定により公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

【阿部総務部長】

それでは、以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。